

農業技術情報

平成23年9月2日
ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝農業改良普及センター十勝東部支所
015-572-3128
JA 幕別町 54-2302
JA 札内 56-2131
日甜東部センター 54-2756
幕別町農林課 54-6605

各作物の生育状況（幕別町 9月1日現在） （ ）内は平年値

作物名	生育良否	生育状況		生育期節・作業状況
馬鈴しょ	-			収穫作業進捗率 3%
てんさい	やや良	草丈 68.6(61.6) cm 葉数 27.2(30.5) 枚	根周 34.0(32.6) cm	
大豆	並	草丈 77.6(64.6) cm 葉数 9.6(8.5) 枚	m ² 着莢数 535.0(519.4)	
小豆	やや良	草丈 66.6(54.0) cm 葉数 12.6(9.8) 枚	m ² 着莢数 362.6(277.6)	
菜豆(金時)	並	草丈 56.3(50.1) cm 葉数 4.0(4.2) 枚	m ² 着莢数 153.6(136.8)	
牧草	やや良	草丈 91.2(86.3) cm		2番草収穫期 8/27(8/26)
飼料用 とうもろこし	良	稈長 275.6(269.5) cm		乳熟期 8/24(8/31)
ごぼう	並	根長 63.2(63.1) cm 根径 20.8(19.6) cm	根重 145.3(143.3) g	収穫始 8/31(9/2)
ながいも (マルチ栽培)	良	種子重 36.3(39.7) g 茎葉重 560.0(528.9) g 首長 25.2(23.2) cm	いも長 65.4(56.4) cm いも重 650.8(536.7) g いも径 52.5(49.1) mm	
たまねぎ	-			収穫作業進捗率 3%

畑 作

1 秋まき小麦

越冬前に過不足ない生育量を確保するため、は種適期・適正なは種量を守りましょう。

また酸度矯正は、は種前の時期しかできないので、は種前に必ず pH 測定を実施し、適正値に達していない場合は酸度矯正に努めましょう。

(1) 作付ほ場の準備

十分に腐熟していない前作物残渣のすき込みや透排水性の不良は、雪腐病発生のリスクを高めます。以下の点に注意して土壌菌密度が高ならないように対策してください。

1) 休閑緑肥、野菜収穫跡(秋まき小麦の前作物)のすき込み

- ・小麦をは種までに3～4週間の腐熟期間を確保します。
- ・すき込みは、ストローチョッパーで細断後ブラウですき込み、またはディスクハローやロータリーで表層土と攪拌後にブラウですき込みます。

2) 土層改良対策

- ・小麦は有効土層の深さが収量・品質に大きく影響します。

- ・機械の踏圧やロータリー耕でできた耕盤層は、ほ場が乾燥しているときにサブソイラー等で破碎し、小麦の深い根張りを確保します。
- ・透排水性の劣るほ場では、は種前のほ場準備として心土破碎の施工などの排水対策を実施しましょう。

3) 土壌改良、銅欠乏、排水対策

- ・は種前に必ず pH 測定し、低 pH ほ場では pH 5.5 以上を目標に改良しましょう。ただし、馬鈴しょを作付している場合は、pH 5.2~5.5 を目標に改良します。
- ・銅欠乏症状の出やすい地帯（腐植の多い火山性土等）では銅の補給が必要です（Cu 入り土壌改良資材等の施用）。
ただし、銅は微量元素で過剰障害も生じやすいので、土壌診断基準値に基づいて適正量の土壌改良資材を施用しましょう。

(2) は種時期とは種量の考え方

- 1) 越冬前の葉数が 5 葉を目標に、4 ~ 6 葉が確保できる時期が適期は種です。
- 2) 極端な早まきは過繁茂となり、倒伏を招くので止めましょう。
- 3) は種時期が遅れると生育が十分に確保されず、冬損が多くなります。
- 4) ほ場の発芽率が 90% の場合、適期まきで 200 粒/m² 前後、は種時期の早晩によりは種粒数を増します。千粒重を確認して、は種量を決定しましょう。

表 1 は種時期とは種量

時期	地区別は種量 (kg/10a)			千粒重 (g)
	本部	南幕	種子	
早期 9/16~20	5~6 極端な早播きは避ける		避ける	36
適期 9/21~25	6~7	7~8	5~6	
晩期 9/26~30	8~9	9~10	6~7	
10月 10/ 1~7	9~10	10~11	-	

(3) は種時の注意

は種深度が深いと二段根になり、初期生育が不良となります。均一に出芽・生育させるため、過度なロータリー掛けを避け、は種深度を 2 ~ 3 cm としましょう。凍上害が発生しやすい地帯では、やや深めには種して下さい。

(4) は種時の施肥量

越冬前に小麦が吸収する窒素は、3~4kg/10a 程度です。過剰な基肥施用はコストの無駄となるほか、以下の影響が懸念されます。

- ・土壌凍結の浅い年 下層に流亡して地下水・河川汚染の原因となります。
- ・凍結の深い年 浅い土層にとどまって翌春小麦に吸収され、タンパク過剰を招く可能性があります。

表 2 は種時の施肥量 (kg/10a)

土壌型	低地土	泥炭土	火山性土	台地土
窒素	4	4	4	4
リン酸	1 2	1 4	1 5	1 4
カリ	9	1 0	1 0	9

野菜作付跡等、土壌残存窒素が多い場合は基肥窒素 2kg/10a 程度を目安に減肥する。

(5) 雑草対策

ほ場に雑草が増えている場合には、これまでの除草体系を見直して、雑草の種類に応じた効果が高い処理法を選択して下さい。

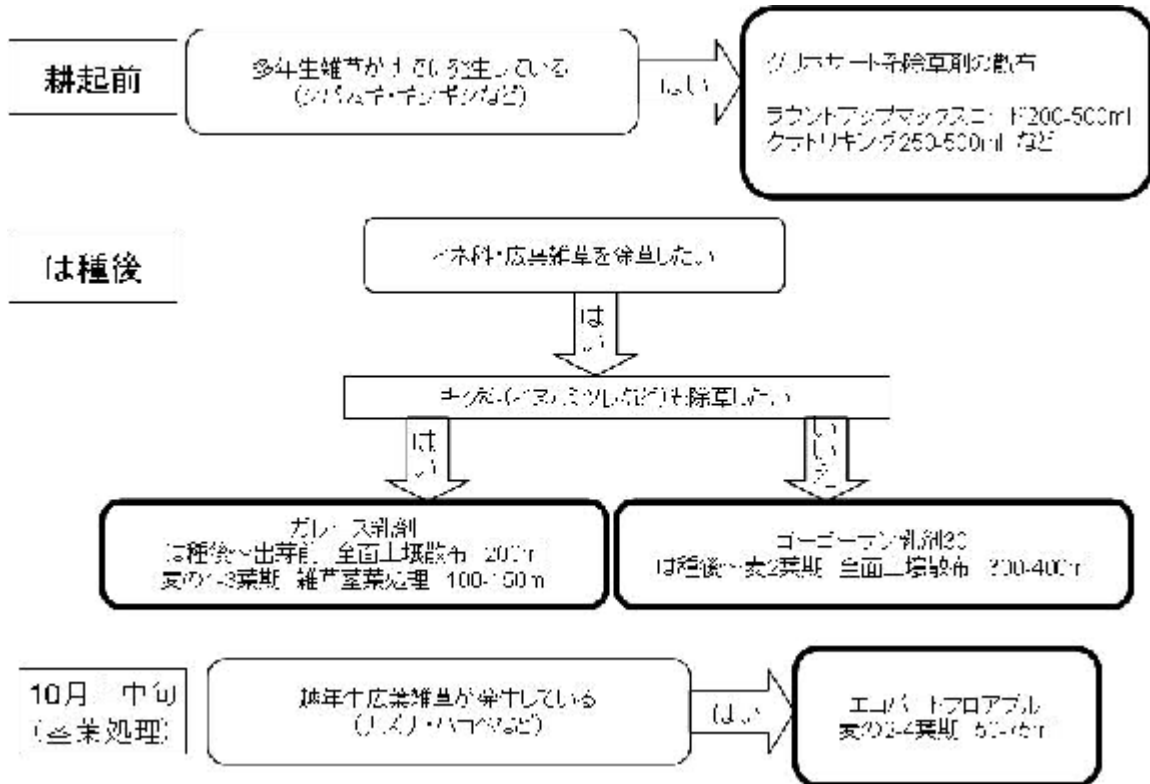


図1 雑草の種類に応じた除草体系

(6) 小麦への「そば」の野良生え防止

そば跡に小麦を作付けした場合、収穫時に「そば」が小麦に混入すると調製が困難となり、小麦粉に混じったそばが「そばアレルギー」を起こすことが問題視されています。

小麦の前作に「そば」は基本的に避けてください。やむを得ず「そば」の跡作に小麦をは種する場合、収穫時の脱粒によるそばの野良生えが多くなるので、耕起方法や除草剤で後処理を徹底してください。

2 馬鈴しょ

(1) 収穫時の注意

選別時、網コン等への投入時には、傷、打撲などを与えないよう注意しましょう。疫病、軟腐病による腐敗は仮貯蔵中にも進行します。収穫は晴れた日に行い、十分な風乾を行いましょう。

(2) 疫病・軟腐病防除

澱粉用・加工用品種で収穫期の遅いほ場は、疫病・軟腐病防除を継続しましょう。

病害虫名	薬剤名	倍率	水量/10a	使用基準
疫病・軟腐病	コサイドDF	1,000倍	120ℓ	-
疫病	マンゼブ剤	400～600倍	120ℓ	収穫7日前・10回以内

生育後半の疫病発生は塊茎腐敗につながります。収穫までに日数がある人は薬剤の安全使用基準（使用回数、収穫前日数）に注意して防除を継続してください。

3 豆 類

(1) 金時の適期収穫

9月1日現在の金時の登熟は、ほ場によりバラツキが見られます。ほ場ごとの登熟状況と天候を鑑み、収穫方法に応じた適期収穫と乾燥調製に努めましょう。

ピックアップ収穫

収穫・脱穀適期 完熟期（熟莢率 100%、成熟期から 3 日後）～6 日以内

収穫時期の子実水分と脱穀回転数(回転/分)

時期	完熟期		6日後
子実水分	23～26%	19～23%	18～19%
脱穀回転数	220	250～300	220

注) 26%以上の高水分では押傷・つぶれ粒が多発し、18%以下の低水分では220回転以下でも裂皮粒が多発します。また適水分(19～23%)でも300回転以上では損傷粒が発生します。

ニオ積み収穫

収穫適期 成熟期（熟莢率 80～90%）以降、完熟期（熟莢率 100%）まで。

（成熟莢とは、莢を振った際に音がするもの）

集積期間 2週間程度。過乾燥（子実水分18%以下）に注意する。

脱穀回転数 220～300回転/分とし、過乾燥では低速側にする。

4 てんさい

9月が高温の予報であることから、褐斑病の進展が懸念されます。

褐斑病で糖分を下げないために、下記期間で必ず防除を実施しましょう。

(1) 褐斑病防除

防除時期	薬剤名	使用濃度	使用基準
9/1～10	プランダム乳剤	2,000倍	収穫7日前・3回以内
9月中～下旬	カスミンボルドー	800倍	収穫7日前・5回以内
	カップーシン水和剤		

9月中旬～下旬の防除は必要に応じて行います。

(2) ヨトウムシ防除

防除時期	薬剤名	使用濃度	使用基準
9/1～10	ベジホン乳剤	1,500倍	収穫21日前・4回以内
	マッチ乳剤	3,000倍	収穫14日前・2回以内

アシグロハモグリバエ・シロオビノメイガが心配されるほ場はマッチ乳剤で防除しましょう。

褐斑病・ヨトウムシ共に葉が乾いた状態で防除しましょう。

(3) 育苗土の準備

来年用の育苗土には病気の恐れのない土を用意し、年内に酸度矯正を実施しましょう。

（粉の炭カルで pH6.0 に調整し、生石灰は使用しない）

5 心土破碎の実施

作土の膨軟化・暗きょ効果の向上には心土破碎が有効です。収穫の終わった畑は、晴天が続く時期を

見はからって、心土破碎や広幅心土耕を行い、根域が深く確保できるよう準備しましょう。

野 菜

1 葉菜類の病害防除について

朝晩の気温の低下により、べと病が発生しています。また、日中に高温・過湿条件が長く続いていることから軟腐病や腐敗病（タール病）の発生も見られます。今後、台風12号の降雨により、さらにはほ場が過湿となってべと病と軟腐病が発生しやすいほ場条件となりますので、予防防除と排水対策を徹底して下さい。

2 レタスの病害虫防除

(1) べと病の防除

朝晩の気温が低くなって、下葉の表面に黄色の病斑と葉裏に白色のかびが見られるべと病が多発しています。べと病防除は予防（発病する前の防除）が重要となりますので、発病初期までに防除を実施して下さい。

薬 剤 名	使用倍率	水量	使用基準		備 考
		ℓ/10a	使用時期	回	
ダコニール1,000	1,000 倍	150	収穫 14 日前	3	発病前までに使用 発病初期までに使用 葉裏まで薬剤が浸透
ランマンフロアブル	2,000 倍		収穫 3 日前	3	
レーバスフロアブル	2,000 倍		収穫 7 日前	3	

散布水量を多くして、下葉までかかるようにして下さい。

日中の気温が高い時期のべと病の発病は、軟腐病も多くなりますのでべと病防除が重要です。

(2) 軟腐病・腐敗病（タール病）の防除

日中の気温と湿度が高く続いているために、8月末から軟腐病と腐敗病の発生が多くなっています。台風12号の降雨ではほ場が多湿条件となり、最高気温が高くなると軟腐病と腐敗病が多発しますので、今後も予防防除を実施して下さい。

薬 剤 名	使用 倍率	水量	使用基準		備 考
		ℓ/10a	使用時期	回	
スターナ水和剤	2,000 倍	150	収穫 14 日前	2	発病前までに使用 発病初期までに使用 (すそ枯病登録あり)
バリダシン液剤 5	800 倍		収穫 7 日前	3	

スターナ水和剤の使用時には、ほ場が多湿条件となるとすそ枯病が発生しやすくなるため、リゾレックス水和剤1,000倍で同時防除を行って下さい。

(3) 菌核病の防除

本年の6月中旬～下旬にかけて菌核病が発生しました。春先に菌核病が発生したほ場では、9月に入って日中の気温が低下し、ほ場が過湿条件になると再度発生しやすくなりますので注意して下さい。

薬 剤 名	使用倍率	水量	使用基準	
		ℓ/10a	使用時期	回
アミスター 20フロアブル	2,000 倍	150	収穫 7 日前	4

3 キャベツの病害虫防除

(1) 株腐病の防除

高温・過湿条件が続いていることから、株腐病が発生していますので、結球前の防除を徹底して下さい。

薬剤名	使用倍率	水量	使用基準	
		リットル/10a	使用時期	回
リゾレックス水和剤 アミスター20フロアブル	500～1,000倍	150	収穫7日前	3
	2,000倍		収穫7日前	4

散布水量を多くして、下葉までかかるようにして下さい。

(2) コナガ・アブラムシ類と軟腐病の防除

防除時期	薬剤名	使用倍率	水量	使用基準		対象病害虫
			リットル/10a	使用時期	回	
定植30日目	スピノール顆粒水和剤	2,500～5,000倍	150	3日前	3	コナガ
定植40日目 (結球始め)	アファーム乳剤	1,000倍	150	7日前	3	コナガ 軟腐病
	スターナ水和剤	1,000倍	150	7日前	3	
定植50日目	エビゼット水和剤	1,000倍	150	7日前	3	コナガ 軟腐病
	カセツ水和剤	1,000倍	150	7日前	3	
定植60日目	スカトフロアブル	2,000倍	150	収穫前日	5	コナガ

4 はくさいの病害虫防除

(1) 軟腐病とべと病の防除

軟腐病の発生が多くなっていますので、結球前の防除を徹底して下さい。また、べと病も発生していますので同時防除を行って下さい。

防除時期	薬剤名	使用倍率	水量	使用基準		対象病害虫
			リットル/10a	使用時期	回	
外葉の立ち上がり 1回目 (防除開始)	スターナ水和剤 ダニール1,000	1,000倍	150	7日前	3	軟腐病 べと病
		1,000倍		7日前	2	
結球開始期 (心葉が巻く時) 2回目	アグリマイシン100 レーバースフロアブル	2,000倍	150	14日前	3	軟腐病 べと病
		2,000倍		14日前	3	
3回目 2回目から7日後	マテリナ水和剤 ランソフロアブル	1,000倍	150	14日前	3	軟腐病 べと病
		2,000倍		7日前	4	
4回目 3回目から7日後	バリタシン液剤 プロホース顆粒水和剤	500倍	150	3日前	3	軟腐病 べと病
		1,000倍		7日前	3	

プロホース顆粒水和剤とダニール1,000の茎葉散布は、合わせて2回まで。

プロホース顆粒水和剤は、過湿条件下での散布では薬害が発生しやすいため注意。

5 台風12号の降雨による石灰欠乏対策

台風12号の降雨によって高温・過湿条件となり、葉先枯れや心腐れの石灰欠乏症状が発生しやすくなります。結球期までに、一週間間隔で2～3回散布して下さい。（高温時の日中は散布しない）

葉面散布剤（カルハード：散布濃度500倍）石灰のみ。

葉面散布剤（カルプラス：散布濃度500倍）石灰＋窒素が必要な場合。

6 だいこん

(1) 軟腐病対策

軟腐病の防除は、播種後25日前後での予防防除が効果的です。

Zポルドーでは、葉害軽減のためにクレフノン200倍又はバイカルティ1,000倍を混用します。

(2) 亀裂褐変症対策

土壤水分が多くなるとだいこんの直根表皮の抵抗力が低下し、気温が菌の発育適温25～30になると直根表皮に侵入して亀裂褐変症となります。

バシタック水和剤75～1,000倍をは種後20日目と30日目の2回散布を実施します。又、発生しやすいほ場では、は種前にリゾレックス粉剤を使用して下さい。

7 ながいも

いも長、いも重ともに平年を上回っています。台風12号の接近・通過により、支柱倒伏が心配されますので早めの補強を行って下さい。

(1) 強風による支柱の倒伏対策

例年、強風による支柱の倒伏が見られます。早めに支柱の補強を行って下さい。

倒伏すると「いもの生育」と「いもの登熟」が止まりますので注意が必要です。

8 ごぼう

(1) 黒ずじ病の発生に注意

黒ずじ病が発生しています。まだ防除を行っていないほ場では早めに行ってください。

使用薬剤名	使用倍率	安全使用基準	使用回数
フロンサイド水和剤	1,000倍	収穫21日前まで	3回以内

9 にんじん

高温・過湿条件により、黒葉枯病や軟腐病の発生しやすくなっていますので、特に茎葉の生育が旺盛なほ場では注意が必要です。

(1) 台風12号の接近・通過による黒葉枯病、軟腐病の発生に注意

黒葉枯病

使用薬剤名	使用倍率	安全使用基準	使用回数
ポリベリン水和剤	1,500倍	収穫14日前まで	5回以内
アミスター-オプティフロアブル	1,000倍	収穫21日前まで	2回以内
ロブラール水和剤	1,000倍	収穫14日前まで	4回以内
ストロビーフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内

軟腐病

使用薬剤名	使用倍率	安全使用基準	使用回数
スターナ水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内

10 たまねぎ

球肥大は平年並みに回復し、根切り作業と一部収穫が実施されていますが、収穫直前まで病害防除を徹底して下さい。

(1) 根切り後の防除

根切り直後の使用農薬は、トップジンM水和剤500倍～1,000倍です。

収穫までに10日以上の間隔がある場合は、ポリベリン水和剤1,000倍で防除して下さい。

収穫直前には、トップジンM水和剤500倍～1,000倍の防除を必ず実施して下さい。

(2) 来年の苗床作り

緑肥の鋤き込み後は、十分に分解させるためには2～3回の土壌混和が必要です。

土壌混和後は必ず早めの土壌診断を実施して下さい。

収穫期の農作業事故を防ごう！！

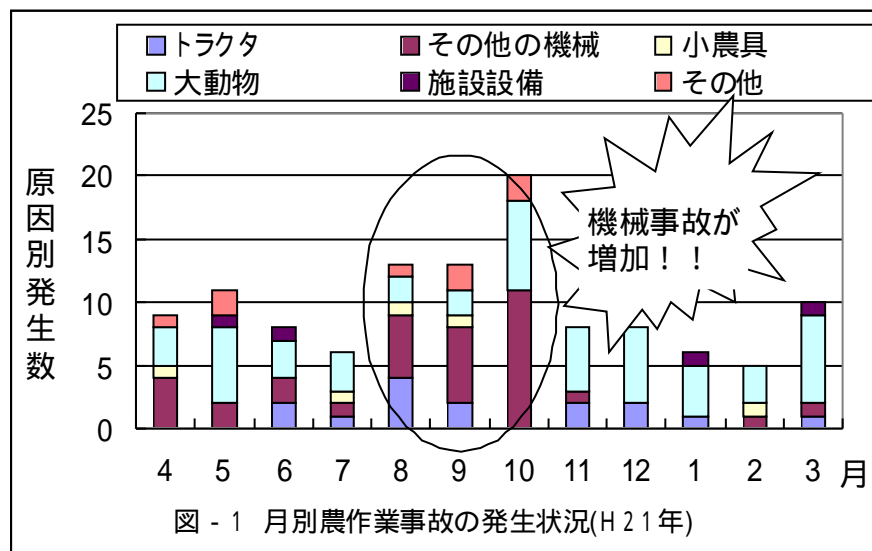
馬鈴しょ・豆類の収穫時期になりました。

ハーベスターによる「挟まれ、巻き込まれ」事故に十分注意しましょう。

手袋は指の抜けるもの、だぶつきの少ない服装で

緊急回転停止装置を複数装備する

選別部の詰まり物除去は、必ず回転を止めてから



機械走行中、飛び乗り・飛び降りを絶対にしない

機械周辺では声を掛け合って事故防止！

休憩と水分補給を十分に！